



西川町 議会だより

天狗山から見た初日の出

2012.1.16 79号

発行 山形県西川町議会

新年のあいさつ	2	
12月定例議会	3	
政策提言書の提出	4	
一般質問	7人の議員が一般質問	6
追跡調査	寒河江ダムの安全性について	13
行政視察報告		14
古道シリーズ③	『道者路と清川行人小屋』	16

謹賀新年

新年のごあいさつ

議長 井場 榮治

昨年、国内では大きな出来事が数多くありました。その一つは未曾有の大災害となった三月十一日の東日本大震災であり、多くの方々の尊い命が失われましたことに心から哀悼の意を表します。私はこの悲しい出来事の中で、多くの訓えを学びました。それは人間として「使命感」と「責任感」を持つことが大切であるということです。地震、津波、原発事故という三重苦の中で、自分の命を顧みず必死になって救助活動や復旧活動に当たられた消防、自衛隊、警察そして原発の従業員の行動であります。

なぜ彼らをそこまで行動させたのか。それは自分の職務を責務としてあるいは人間として、人を助け、地域を、国を守ろうとする「使命感」「責任感」以外の何ものでもないと思うのです。あの行動を見まして、議員としての責務は「命を掛けるくらい」の責任感と使命感を持って町の発展、町民の方々の幸せのために尽力し行動することだと強く感じさせられました。

二つ目の出来事は、女子サッカーワールドカップ優勝を勝ち取った「なでしこジャパン」の活躍です。粘り強く最後まで諦めない心を持ち、素晴らしい集中力と使命感、責任感を持って事にあたっていく姿勢は大切なことだと思います。

議会も四月の選挙で六人の新人議員が誕生しました。全議員が心を一つにして、議会が持っている監視、審議機能を十分に発揮しなお一層努力して参りますので、町民の皆さまの更なるご支援をお願い申し上げます。

町内施設の指定管理者を決定

12月6日から9日までの4日間、平成23年第4回定例会が開催され、一般議案・条例案・予算案の14案件を審議しました。町内施設の指定管理者の指定。西川小学校の図書、備品購入。条例の廃止、一部改正。補正予算について原案のとおり可決しました。

指定管理者制度では、行人小屋については随意管理者選定は公募により、大井沢温泉館は、公募により行つてを原則としております。

今回は、西川町総合開発（全員賛成）の関連3施設と清川

施設名	管理運営	公募の有無	管理経費の上限(年度当り)
西川町総合交流センター	西川町総合開発	無	700万円
西川町月山湖水の文化館	西川町総合開発	無	1,100万円
西川町水沢温泉館	西川町総合開発	無	2,100万円
西川町大井沢温泉館	西川町総合開発	公募	1,610万円
西川町山遊歩道小屋	岩根沢区	無	0円(使用料と相殺)
清川行人小屋			

※指定管理期間は平成24年度から3年間

財産名	金額	内容及び購入先
図書	1,549万円	6,946冊 (株)図書館流通センター(東京都)
一般備品	1,139万円	机、イス、テーブル等 (株)オオヤマ(寒河江市)

財産の購入

西川小学校の図書と一般備品(机、イス、テーブル等)の購入が決まりました。(全員賛成)

条例の廃止・一部改正

◆西川町児童館設置条例を廃止

小山児童館及び間沢川児童館が廃止されるため条例が廃止されました。

◆西川町農村公園条例の一部改正

熊野石田農村公園が廃止されるため一部改正されました。(全員賛成)

補正予算

◆一般会計

予算の総額に2752万9千円を追加し、総額47億4296万9千円となりました。

主な補正内容は、人件費や中山間地域等直接支払交付金、創意工夫プロジェクト支援事業補助金、

住宅建築支援補助金等の追加です。(賛成9・反対1)

◆国民健康保険特別会計

予算の総額にそれぞれ12万8千円を追加し、総額7億1309万7千円となりました。

◆路線バス事業特別会計

予算の総額にそれぞれ62万2千円を追加し、総額6021万3千円となりました。

◆公共下水道事業特別会計

予算の総額にそれぞれ255万9千円を追加し、総額2億2000万7千円となりました。

主な補正内容は、人件費や中山間地域等直接支払交付金、創意工夫プロジェクト支援事業補助金、

円となりました。主な補正内容は、町道のマンホールポンプの移転工事と人件費です。(全員賛成)

◆介護保険特別会計

予算の総額にそれぞれ1053万円を追加し、総額6億4305万7千円となりました。

「所得税法第56条の廃止」に関する意見書の提出を求める請願について不採択としました。(採択賛成2・反対8)

請願

主な補正内容は、高額介護・特定入所介護サービスにおける利用者増によるものです。(全員賛成)



西川町議会初の「政策提言書」を町長に提出

町の大きな課題であり、また議会報告会でも多くの町民の方から意見が出された「総合産業化の推進」について、今年5月から産業建設常任委員会で調査研究を重ね、提言をまとめました。その提言を議会の総意として、12月9日に西川町議会では初めてとなる「政策提言書」を町長に提出いたしました。

議会は、町の政策を実行する中において重要な意思決定を行う機関であり、議会の監視機能は、行政を合理的に行わせることが目的です。したがって、政策に対して指摘をする場合には、これに代わるべき、実現性のある具体的な代案を持つていなければなりません。議会では、これからも、町の政策が効率的に公平に、的確に実施されるよう、必要に応じた提言をしていきます。



政策提言

本町の資源を活用した総合産業化の推進

【提言の趣旨・背景】

町が総合産業化を推進してから既に5年が経過している。しかし、その基盤となる1次、2次、3次産業は、高齢化による生産人口の減少や景気後退による商工業生産の落ち込みなど、厳しい状態が続いている。

加えて、少子化や過疎化により人口減少に歯止めがかからず、地域共同体の維持すら困難になっており、議会報告会の中でも、多くの町民から「町の産業を振興し、活気ある町へ」との要望が多く出された。

このような中、本町が持続的に発展し活性化するには、本町の多様な資源を活用した総合産業化の取組みを通じて、経済の活性化、所得の向上を図ることが求められている。

【提言の具体的内容】

1、第1次産業の活性化

総合産業化の基本は農業生産物であり、その量産化を図ることによって加工や販売が可能となる。西川町は、豪雪地帯ではあるが、それゆえ、きれいな水と豊かな自然に恵まれており、この自然的特長を活かした農産物を振興させることが求められている。

(1) 山菜生産量の増加と日本一の山菜の町を目指して

本町の山菜も自然条件を上手く利用した生産物であり、今後も更に生産を拡大し、日本一の山菜の町を標榜できるような施策の推進を図り、現在その生産にノウハウを有する達人の技術を次世代に引き継げるよう努めること。また、山菜が一時的に多量に算出されることから、冷温あるいは塩蔵等その保存方法の対策を講ずること。

(2) 野菜の産地化と付加価値向上

その土地独特の農産物こそ消費者の購買心を高め、町の特徴を現すものであり、本町で生産量が増えつつあるナス、ニンニク、カボチャのいずれかに焦点をしぼり、全町挙げて量産化できるよう条件整備を図り、西川町ブランドの確立を図ること。

(3) 啓翁桜と花木の推進による産地化

本町の啓翁桜は生産組合を中心に安定した生産並びに販売を行っており、また、山採り花木も自然条件の厳しさが品質に欠かせない好条件となっている。啓翁桜の団地を更に拡大推進すると共に、花木採取地を大井沢地区外まで拡大できるよう条件整備と、効果的な後継者育成を図ること。

2、農商工連携の一層の強化

本町の特徴の一つに少量多

品目があり、高齢者の生きがいつくりや定年帰農者が容易に取組めるものとして有効であり、今後も生産活動を維持できるようにきめ細かな指導体制が望まれる。

(1) 直売所の1億円産業を目指す取り組み強化

いきいき直売所の販売を伸ばすため、生産者のグループ化を図り、安定・高品質な野菜を常時販売できるようにすると共に、直売所を銘水館や水沢温泉館と人的流れが結合できるように、思い切った財政的投資を行うこと。

(2) 町内旅館、料理店、小売店との連携強化

町内の経済活性化を図るため地産地消をすすめる、生産者（生産物）と町内消費者が結び付けられるようシステム整備を図り、旅館等が安心して必要な農産物を購入できるように体制づくりを行うこと。

(3) 西川町の「食」の振興

観光客の楽しみの一つはその土地の食である。本町の特色ある食、山菜そばの振興と、山菜の食を観光面で積極的に活用することにより経済の活性化に資すること。

(4) 特色ある農産加工品の開発

農業者や商業者の活性化を図るため、農業と商工業の連携により、西川町らしい特色ある加工品の開発を急ぎ、そのためのJAや関係者の主体的な話し合いの場を創設すること。

3、総合産業化の取組み成果の公表

これまでの総合産業化の取組み状況を明らかにし、生産者や加工業者並びに小売店と一緒に取組んでいく姿勢と展望を示すこと。



提言内容の説明をする
佐藤産業建設常任委員長
(写真撮影：奥山編集委員長)



宮林 昌弘 議員

来年度予算編成と重要事業をどう進めるのか

町長 総合産業化は平成25年度中には成果を示したい

小川町長が就任して、来年度で3年目になるので、小川カラーを出した予算編成方針と重要事業をどのように進めるのか。

質 小学校統合後、各地域が衰退しないようにするため、地域支援をどう考えるか。



吉川区民運動会

答 学校教育の指針では地域との結びつきを大切にしながら、地域の自然・文化・歴史等豊富な教育資源を活かし、体験学習を通して地域に学ぶとして

います。そのために小学校と地域・公民館との連携を重視していきますので、関係皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

質 住宅団地造成が、用地交渉で暗礁に乗り上げているが、事業促進化の手立てはあるのか。

答 今まで地権者の方々の理解を得るよう話し合いをしてきました。

12月中に、地権者の理解を得ながら、現在の全体整備計画を再検討します。

※下段参照

質 総合産業化に多くの時間と経費をかけているが、具現化と実現までの道筋をどう考えているのか。

答 総合産業化の具現化のために、平成23年度から25年度までの行動目標を立て、特

に西川町の特長ある山菜・きのこを利活用したビジネスを展開いくための体制づくりを早急に進めていき、平成25年度中には成果を示せるよう努力します。

質 町長と語る会で出された意見をどう予算に反映するか。また、以前実施していた各区の要望ヒアリングをどう復活させるのか。

答 予算反映は、すぐ出来るものは対応しますが、ハード整備は地域づくり計画の中でも検討していただきます。

※ 住宅団地事業について
12月27日に議会全員協議会を開催し、町から次の説明を受けました。
地権者から、代替地を含めた対応でのご協力を得られましたので、多少の計画の変更は生じるもの、宅地造成事業は予定どおり進めることになりました。
内容については、町報等で随時お知らせします。

西川町における今後の学校教育とは

教育委員長 西川町らしい自然学習を展開し特色ある教育活動を

質 小中一貫教育を目指すとは具体的にどういった事を指すのか。

また、西川町らしい特色のある教育環境を創るとは、「ふるさとを愛し、高い志をもち、ぶなのようにたくましく、ともに学ぶこども」を育てることが、特色のある教育につながるのか。

答 一つは小学校と中学校のスムースな接続として教職員の相互乗り入れ授業や児童生徒の交流を実施しています。二つ目は小中の系統性を考えたカリキュラムの開発であり、西川らしい自然学習を展開し特色



「ブナの森自然学校」の月山湖周遊カヌーツーリング

行っていくのか。

のある教育活動を実施します。

質 統合小学校の開校に伴い、地域と子供たちの結びつきを学校教育の中にどのよう位置づけ学校経営を

答 これまで同様、地域と一体となった活動を展開することを目標に、各地区を訪問する学習を通して、その地区の特色を活かす学習の展開や各地区の公民館等との連携を深めて行きたいと思えます。そして西川小学校に町民の皆様方に来ていただくような、魅力ある教育活動の展開を行うことが必要と考えています。

質 「安全・安心・安らぎのある生活」について移動スーパーに関して前回一歩前に進めて善処したいと回

答されましたが、その後の対応は怎么样了ののか。

答 移動販売車の販売の状況や生活協同組合等の宅配の状況を把握してきましたが、各地区で中広く利用されている実態が伺えます。生活用品等の購入に困窮される世帯があれば具体的な対応策を協議させていただきま

質 第三セクターの経営状況について9月議会、町のトップと西川町総合開発株式会社とのトップという二足の草鞋では本気で経営をやっているのか。

しい旨の答弁をしましたが、このことについてその後どのようなアクションを起こされたのか。あわせて、両社とも年々赤字経営が続きますが、平成23年度末の累計債務残高をどのように見込んでいますか。

答 ある知り合いを通じて会社経営経験のある方をご紹介いただき協力を願っています。ところでありまして、12月中旬に取締役会を開催し、今後の経営方針等について打合せを行う予定です。平成23年度累積債務残高については、平成22年度決算と同程度と見込んでいます。



奥山 敏行 議員



佐藤 幸吉 議員

西川町の魅力発信を積極的に

町長 役場内でも分かりやすい情報提供のあり方を検討している

質 西川町には、歴史的資産、自然、地域の宝がいっぱいあります。国道沿線の看板を、目に飛び込んでくるようなインパクトのあるものにし、材料は木材を利用してはどうか。

答 ホームページの管理については、今年度新設した情報推進係が行っていますが、情報の更新については、担当課が随時行っています。また、役場内に「情報共有推進会議」を設置し、分かりやすい情報提供のあり方について検討しています。

もみなさんのご理解、ご協力を得ながら推進していく必要があります。

質 フレーズですが、最近「月山のある町・西川町」も使われている。使い分けなどはあるのか。

答 ホームページの管理については、今年度新設した情報推進係が行っていますが、情報の更新については、担当課が随時行っています。また、役場内に「情報共有推進会議」を設置し、分かりやすい情報提供のあり方について検討しています。

質 「雪と緑と太陽の町・西川町」と、「月山のある町・西川町」は、西川町を連想しやすく、爽やかで分かりやすいキャッチフレーズとして、町内外の方々から認知されていますので、双方とも使いながら西川町をPRします。

質 町の魅力は即、町民の自信につながるものと考えます。町の魅力を発信する決意を聞かせてほしい。

答 多岐にわたる町の魅力・財産を町民の方々と共に認識し、活用し、分かりやすい情報として発信していくことは、西川町をますます元氣な町にしていくことであり、今後

質 「雪と緑と太陽の町・西川町」は、長年使われたキャッチ

答 ホームページについて、日々更新によって町民に役立つ情報を効果的に発信してはどうか。また更新はどのくらいのペースでしているか。



国道112号線 月山沢地内にある 木製の看板

自然環境の保全と歴史観光の推進を

町長 河川景観が維持されるよう懇談会を設置したい



砂も砂利もなくなってしまった、海味地内の寒河江川

るのでは。

着させる必要があると思いが。

答 美しい河川景観は、河川とその敷地、周囲の景観などが調和されることにより形成されるものと思えます。釣や川遊びができる河川環境と良好な河川景観が維持されていくよう、河川管理者等の関係機関、団体、各地区による懇談会の設立などを検討していきます。

質 美しい河川景観は、河川とその敷地、周囲の景観などが調和されることにより形成されるものと思えます。釣や川遊びができる河川環境と良好な河川景観が維持されていくよう、河川管理者等の関係機関、団体、各地区による懇談会の設立などを検討していきます。

質 清流寒河江川を含め、西川町の観光が以前から100万人交流を目標に掲げています。山岳信仰を含め歴史文化遺産の有機的活用についても視点を向け、観光を全体的に長続きのする一貫性のあるネットワークを定



質 西川町の母なる川、寒河江川の上流が平成7年に清流日本一に選ばれました。上流に2つのダムが完成してから砂利、砂、石がダム上流で止められ、

下流では岩盤が見え、魚の住める場所が減ってしまっ。町と関係者、町民、知恵を合せ寒河江川の上流から下流まで河川環境と景観を守って行く必要がある



青山 知教 議員



古澤 俊一 議員

安全安心な地域づくりを

町長 自主防災組織づくりを進める

質 6月に続き再度災害に関する質問であるが、大震災の恐怖も時の経過で薄れてしまふ。

避難・誘導等に対する住民への対応と周知の徹底が遅すぎないか。

答 これまで経験したことのない巨大地震であり、町民の安全・安心を確保するためには初動体制の確立が重要であり、今回の初動対応の検証を行っているところだ。この検証結果に基づき、防災計画の見直しや情報伝達方法の検討を行っていきます。今回のような大規模災害の場合、行政が対応するのにも限界がありますので、自主防災組織作りを進めていきます。

質 ハザードマップ作成は、県からの資料提供を基に、災害に関する地元の見取り入れ、整理して配布するところだが、最終的なめどは。

答 警戒区域の指定は県で行い、平成24年度までかかります。指定された地域から順次着手していきますが、全地域が作成終了するのは早くても平成25年度になる見込みです。

べきでは。

質 季節的な状況や住宅構造により広報しても聞こえないなどの意見もあります。災害の規模や種類にもよりますが、何が最も有効な情報伝達手段なのか判断して対応していきます。

質 自主防災組織作成は、家族・町内会・区の手順が最良では。

答 自主防災組織が結成された地域では、行動計画など家族会議で充分話し合い、理解して避難行動等することが重要であると思います。町の地域防災計画は基本的な事項や町民、関係機関の役割



町の防災訓練時の「濃煙内避難体験」

等を定めているもので、具体的な行動内容等は自主防災組織内で地域の実情に沿った形で台意形成を図っていただきたく考えます。

電源立地地域対策交付金の活用を検討を

町長 地域住民生活に支障があれば対策を講じる



電気川をまたぐ町道

年東北最大の本道寺発電所が稼動し、長年多額の交付金の恩恵を受けてきた。反面水路または建造物により地域生活や交通の不便性、危険性がある。計画的に交付金を活用する方策を講じていただきたい。

町文化財調査委員会に諮問しており、今年度未まで答甲を受け、町で精査し、吉川地区と協議を行います。平成24年度に整備計画を策定し、平成25年度からの整備を想定しています。



質 水力発電の動力で、産業を興そうとする熱意と、苦勞を惜しまない多くの先人達により、大正時代には吉川発電所、沼山発電所、水ヶ瀬発電所、平成2

付金を活用する方策を講じていただきたい。

答 当該交付金は、水力発電施設所在市町村に交付され、交付金の対象区域は町全域

質 鎌倉幕府の政所長官、大江広元公の領地寒河江の荘の治世が400年続き、その宗家の館、吉川大江公館跡の町有地の管理整備が逐次なされているが、歴史的価値の理解のもと、多面的観光くつろぎの広場として整備の継続策を願いたい。



吉川 大江公館跡

追跡調査 part ②

寒河江ダムの安全性について



飯野 咲子 議員

時代遅れの所得税法第56条の廃止を！

町長 国で議論していただくことが肝心

質 西川町の平成22年分所得申告で農業等の56条該当件数は994件であり、通称白色申告と言われている。この法律は明治時代の家長制度そのままに人格や労働を認めない人権侵害の法律となっている。いくら働いても、配偶者の収入は年間、86万円、家族は50万円しか認められていない。

申告制度により記帳に基づいた適正な申告をしていただくことが大切であり、国で充分議論していただくことが肝心と考えます。

答 この条項をめぐっては、これまで司法で係争された経過もありませんが、現行法の

世界の先進国では家族従業者の賃金は経費として認められている。今全国から廃止すべきの声が上がっており、是非廃止にすべきと考えるが、どうか。

この条項をめぐっては、これまで司法で係争された経過もありませんが、現行法の



白色申告書の用紙

所得税法第56条とは

第56条

居住者と生計を一にする配偶者その他の親族がその居住者の営む不動産所得、事業所得又は山林所得を生ずべき事業に従事したことその他の事由により当該事業から対価の支払を受ける場合には、その対価に相当する金額は、その居住者の当該事業に係る不動産所得の金額、事業所得の金額又は山林所得の金額の計算上、必要経費に算入しないものとし、かつ、その親族のその対価に係る各種所得の金額の計算上必要経費に算入されるべき金額は、その居住者の当該事業に係る不動産所得の金額、事業所得の金額又は山林所得の金額の計算上、必要経費に算入する。この場合において、その親族が支払を受けた対価の額及びその親族のその対価に係る各種所得の金額の計算上必要経費に算入されるべき金額は、当該各種所得の金額の計算上ないものとみなす。

地震について

議会報告会等で町民の方々から、寒河江ダムの安全性に関する質問が多かった。そこで議員全員で、10月12日寒河江ダムの現地調査を行い、最上川ダム統合管理事務所の山科所長と荒木副所長より、話をうかがった。

ダムは河川管理施設等構造令により、地震に対する十分な安全性を確保するよう設計されている。東日本大震災や2008年の宮城内陸地震でも200キロ圏内の石淵ダム・胆沢ダムではわずかなクラック（ひび割れ）はあったが、提体には異常がなかった。

寒河江ダムも中央コア型ロックフィルダムなので、直下型地震でも決壊はない。また震度4以上であれば、直ちに点検に入る体制に入っている。

集中豪雨について

100年に1回の洪水を想定して設計されているが、200年に1度と考へてもよいくらいに丈夫な設計であり、ダム地点の計画高水流量2000m³/毎秒を最大3000m³/毎秒に調節して放流することで、下流域を洪水の被害から守ることができる。ダムが完成してから平成7年8月の豪雨が最大だった。それでも、最大流入量681.5m³/毎秒、最大放流量149.9m³/毎秒であった。

警報放流について

基本は、川の周辺にいる人に向かっての警報であり、住民の方に避難勧告、命令を出すのは町長である。放流する前に、県や町消防、警察などの関係機関に連絡している。停電時でも、バッテリー

ダム周辺の地すべりについて

横手トンネル等周辺の危険箇所は、ダム完成以来観測を続け、対策工事してきた。

フラッシュ放流とは

川を流れる水の量の変化が少ない状態が長い時間続くと、「よどみ」が発生し、河床（川底）に藻類の繁殖や汚れなどがついたままとなったりする。これは、環境・景観に対して好ましくない。ダムで貯めている水を定期的に放流することによって、よどみの発生を抑え河川をリフレッシュする効果がある。

調査を終えて

寒河江ダムは安全だと感じました。しかし、日本では毎年のように想定外の厳しい自然災害が発生していますので、今後とも情報収集を的確に行きたいと思えます。

寒河江ダムの水を放流した時の到達時間

(計画高水流量2000m³/sを最大3000m³/毎秒に調節した時の到達時間)

地点	到達時間
月岡橋	約10分
入間橋	約60分
高瀬橋	約80分
西川小	約80分
睦合公園	約100分

小水力発電の先進地に学ぶ



那須野ヶ原の須野ヶ原第二水力発電所
那須野ヶ原第二水力発電所
那須野ヶ原第二水力発電所
那須野ヶ原第二水力発電所

西川町議会の総務厚生常任委員会と産業建設常任委員会は、平成23年10月25日（27日の2泊3日）で、小水力発電をテーマとした合同行政視察研修を行いました。

視察場所は、栃木県の「那須野ヶ原土地改良区連合」（水士里ネット那須野ヶ原）の水力発電所と群馬県桐生市黒保根町の「利平茶屋水力発電所」の2箇所です。

那須野ヶ原土地改良区連合

那須野ヶ原土地改良区連合は10の土地改良区の連合組織で、組合員は3382人です。那須川と常川に囲まれた4万ヘクタールの広大な複合扇状地は、那須塩原市と大田原市の2市にまたがる受益地となっており、かつては水の乏し

い原野でしたが、昭和42年から国営那須野ヶ原総合農地開発事業が着工され、平成7年に述べ330キロメートルに及び水路が完成しました。

水力発電は、水路の始まりから終わりまでの落差が480mという急峻な地形であることを活用して、土地改良区施設への電力を供給することを目的として設置されました。

水路を利用した発電所は7箇所もあり、合わせて最大出力1000キロワットとなります。1キロワット10円で東京電力に売電しており、売電価格は一年で約6千万円になることから、発電施設の設備費は、10年間で回収できるとのことでした。

その他に太陽光発電事業、家畜の糞尿バイオマスエネルギーの実証事業に加え、千年の森のプロジェクト木質バイオマス発電所構想やバイオガスパラント・バイオガス発電の可能性調査、液肥実証試験など、さまざまな事業を、国からの補助金を活用しながら進めて行くことが計画されていました。

また、施設の中には那須野ヶ原水ウオーターパークがあり、そこには流水の流れで回転し発電する直径6mのステンレス製の「ガラガラ水車」やエアコンのファンが2基並んだような「ガラ・コ口水車」、象の顔をデザインした「ぞうさん水車」などが設置されていて、楽しく学べる環境学習の場にもなっています。発電された電力は、歩道の柵に設置された青野石製の発光ダイオード（LED）照明灯60基の点灯などに使用されていました。



「ガラガラ水車」発電量1.8kw

利平茶屋水力発電所

この発電所は、国有林野における自然エネルギー発電推進のために、林野庁と東京電力との共同研究で計画され、旧黒保根村が事業実施主体となつて建設されたものです。

発電機は1基で、赤城山のふもとにある桐生市黒保根町の利平茶屋公園内にあり、鳥居川上流の治山ダムから70メートルの高低差を利用した水圧で水車タービンを回し発電するというものです。

最大出力22キロワット、年間11万キロワット（一般家庭約30世帯分）で、公園施設で使用する電気約8%以外は東京電力に1キロワット7円で



利平茶屋の発電機ベルトン水車型小水力発電機。最大出力が22kwで大きな水量を要しない。

売電されていましたが、補助事業というところもあって、20年経過したとしても赤字は解消できないとのことでした。

研修を終えて

去る3月11日の東日本大震災・福島原発の放射能漏れによる未曾有の大災害に見舞われ、わが国の電力需要が逼迫し、今後のエネルギーを何

に求めて行くのか問われています。

原発が消えれば次に大きい発電は火力発電となりますが、燃料費が高くCO₂排出も高くなります。

世界では、地球温暖化防止のために二酸化炭素の排出量制限が議論されています。今や電気は生活や経済から切り離す事の出来ない重要な部分を占めています。このままでは地球温暖化が進み、地球本体がダメになるとも言われています。

豊かな自然と水資源に恵まれた西川町において、環境への負荷軽減に資する小水力発電は、クリーンエネルギー利活用という社会貢献に通じた地域振興のきっかけとして期待できるものと思えます。

このたび議員視察で自家用発電の小水力発電所を見学致しましたが、私達の周りを見渡すと意外と簡単に発電できる、自然からの恵みの多いことに気づかされました。



発電所建屋の前で

議会の動き

議会運営委員会

- 11月25日 □12月定例会の運営を決定
- 10月12日 □寒河江ダムの安全性の現地視察研修
- 12月6日 □指定管理者の指定、新図書館のあり方、町民体育館の今後の方向性、新小学校開校後の新交通体制についての協議
- 12月9日 □新交通体制、町民体育館のあり方についての協議
- 12月27日 □町への政策提言
- 12月27日 □住宅団地事業説明・協議

議会全員協議会

- 10月12日 □寒河江ダムの安全性の現地視察研修
- 12月6日 □指定管理者の指定、新図書館のあり方、町民体育館の今後の方向性、新小学校開校後の新交通体制についての協議

総務厚生常任委員会

- 10月14日 □防災関係事務調査
- 11月16日 □生涯学習関係事務調査
- 12月2日 □所得税法研修会
- 12月6日・9日 □請願審査

産業建設常任委員会

- 10月13日 □総合産業化事務調査
- 10月31日 □総合産業化推進の課題整理
- 11月24日 □農業振興対策事務調査
- 11月29日 □総合産業化推進の課題整理

研修会

- 12月10日 □総合産業化に向けた町への提言のまとめ
- 10月21日 □議会報告会要望箇所視察
- 10月25日・27日 □常任委員会合同行政視察
- 12月9日 □政務調査費の研修
- 12月9日 □議会だより編集
- 12月13日 □レイアウト会議
- 12月16日 □編集会議
- 12月19日 □編集会議
- 12月26日 □第1回校正
- 1月4日 □表紙編集
- 1月6日 □第2回校正
- 1月10日 □第3回校正

地震時の停電はなぜおこるのか

3・11震災の中では、発電所のある西川町も停電になりました。

その理由は、火力発電所などの大きな発電所が震災で発電が止まると同時に本道寺発電所などの小さな発電所も連携で停電になる仕組みとなっ

ているからです。

復旧には電力会社全体で発電所や送電線の安全を確認し、問題のある場所を外し、小さな発電所にも操作電源を送り発電を再開し、緊急性のある所や施設から順次送電されることとなります。

『古道』シリーズ 3

どうしやみち 道者路と清川行人小屋

清川仙人会

片倉忠幸さん (西岩根沢)



清川行人小屋

岩根沢から月山に延びる道は、1206年ごろに、先人が月山詣の行者のために切開いた道であり、この道を『道者路』といいます。

道者路の起点は、岩根沢三山神社裏手の要害神社の脇から左に入ったところ。道は水沢川に降り、東西に分かれる又口から中峰七曲りを登ります。

戦国時代に、追つてから逃れる途中で日吉姫の侍女薄姫が自害し、血で真っ赤に染まったという伝説の赤沼や、束松稲荷神社の横を通り、「台所屋敷」という地名がある小さな広場に到着しますが、ここまでの道は、近年の重機による開削道が多く、当時の面影が薄いことが残念です。現在では、ここまで車で来ることができ、登山道入り口になっています。

台所屋敷を少し進むと、左右に分かれる道があり、左は本道寺に至る分岐道、右に下る道が道者路です。

ブナの大木に包まれた幅広で緩やかな道者路を1時間ほど下ると、雪解けの清らかな水が流れる烏川に到着します。

夏場は水が少ないので、飛び石で川を渡り、葛折の道を上がると、再びブナの大木に包まれた緩やかな登りの道が続きます。不動滝を眺める広場を過ぎて稜線に出ると風景が一変して、ナラの林が続く平坦な道となります。

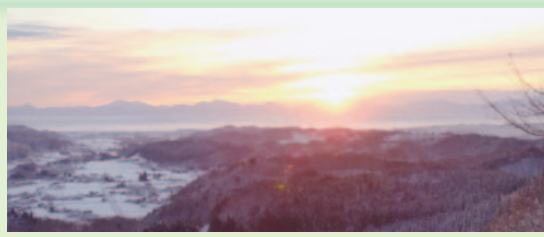
この小屋は、昭和29年に建設され、翌年には高松宮様が滞在されました。小室は、山形城下も見渡せる清川源流(立谷沢川)に当時の姿のままで建っていて、この隠れた山小屋には、全国からファンがやって来て交流を深めているようです。

小室から山頂まで一面に広がるお花畑の中を進み、大雪城や胎内岩をくぐり、2時間ほどで参拝する行者でにぎわう月山の山頂に到着、これが道者路の全行程となります。

この歴史ある道者路と清川行人小屋を守りたくて、岩根沢を中心とした有志で清川仙人会という会を作り、管理のための活動を楽しく続けています。

79号の表紙

天狗山から見た初日の出



表紙の写真とコメントは、海月の細谷美紀子さんからいただきました。『我家は揃って、元旦の早朝は深雪を踏んで山に登ります。今年も天狗山の山頂より初日の出を迎えました。月山がクッキリ姿を現し、清々しい新年の朝に東北の早期復興と皆さまのご多幸を心から祈りました。』

編集後記

冠雪の立体感や輝き、淡雪と薄氷が作り出す紋と造形のみごとさ。冬の自然はその刹那の美しさをみせている。

日常の忙しさの中でも、つい見過ごしてしまいがちな、そんな瞬間に今年も出たい...

あけましておめでとうございます。去年は、大震災があり大変な年でした。自然の怖さをいやというほど身にしてみた年でもありました。自然との共存の中で人間の無力さを痛感しています。

しかし、自然は私達に安らぎと明日への活力を与えてくれます。私達も自然を大事にしながら、新たな町づくりと安全安心の町に向け、全力をあげていきます。皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。(佐藤 耕二)

議会へのおさそい 皆さん傍聴してみませんか インターネットでもご覧いただけます 次回定例会は 3月です

Table with 2 columns: Role (e.g., 議長, 編集委員長) and Name (e.g., 井場 榮治, 奥山 敏行).

●ご感想お寄せください。